

7がつのほけんだより

歯科健診がありました

大きくお口を開けて見せてくれる子や、ドキドキして泣いてしまう子どもさんの姿がありました。

虫歯のある子どもさんが少ないと、歯科医の先生が話してくれました。保護者の方の、お口の健康への関心が高くなってきているのでしょうかとのことでした。

子どもだけでは、まだ十分に歯みがきができない為、仕上げみがきが大切です。

お子様の噛み合わせが気になる場合は、歯科医に相談しましょう。

4～5歳ころからできることがある場合もあります。日常生活で気をつけることなどアドバイスを聞かれると良いですね。

お口をポカンと開けている子どもさんは口呼吸をしていることが多く、歯並びや噛み合わせに影響を与えている場合もあるようです。口呼吸をしていると、口の健康だけでなく全身の健康にも影響してしまいます。ご家庭でも、お口がポカンと開いていないか見てあげましょう。

今回の歯科健診で虫歯があったお子さんは、早めの歯科受診をお願いします。乳歯だからと放っておくと、永久歯に影響を与えることもあります。これからも、子ども達の歯の健康を守っていきましょう。

ひな組さんで
歯科医の先生が
いただきますをして
くれました！



虫による皮膚トラブルに注意しましょう

蚊・ハチ・アブ・ドクガ

蚊に刺された場合は、刺された部位を水道水でよく洗い流した後、濡らしたタオルで冷やします。市販の虫刺されの薬があれば塗りましょう。ハチ・アブ・ドクガの場合は、毒毛や毒針を毛抜きやテープなどで抜き取ります。水道水でよく洗い流した後、濡らしたタオルで冷やし受診しましょう。



やけど虫

(アオバアリガタハネカクシ)

体長6～7mmで、頭が黒くありのような形をしており、水田・畑・湖沼の周辺や川岸に生息しています。夏の夜間、明かりを求めて屋内に侵入することがありますが、素手で触らないようにしましょう。体液がつくと、痒みと皮膚がやけどをしたように赤くなり、水ぶくれになります。眼に入ると激しく痛みます。皮膚症状や目の痛みがある時は、病院を受診しましょう。



令和7年度 7月 江上保育園 ほけんだより 夏に多い感染症に注意しましょう

ヘルパンギーナ

高熱とのどの痛み、特にのどは、水ぶくれができるため飲食ができなくなることもあります。

のどの痛みを伝えられない子は、機嫌が悪かったり飲食できないなどのサインに気をつけましょう。



手足口病

手のひら・足の裏・口の中に水ぶくれができ、発熱を伴うことがあります。(お尻や肘、膝にできる事もある)口の中にできるとよだれが増え、飲食ができなくなることもあります。



咽頭結膜熱(プール熱)

高熱とのどの痛み、目(結膜)の充血、目やにの症状がみられます。感染力が強い為、タオルなどの共有は厳禁です。症状が落ち着いてから2日以上たてば登園可能です。



流行性角結膜炎(はやり目)

流涙、目(結膜)の充血、目やにの症状が見られます。

発熱を伴うこともあります。

幼児の場合、目に膜が張ることもあります。感染力が強い為、タオルなどの共有は厳禁です。医師により伝染の恐れがないと認められるまで登園禁止です。



伝染性膿痂疹(とびひ)

すり傷や虫刺され、あせも、湿疹などの傷口に細菌が入り、水ぶくれができます。

かき壊して、水ぶくれをつぶした手で他の場所を搔くと、そこにまた水ぶくれができてしまいます。

